

第6回高原地区街づくり協議会

日時：平成27年10月16日（金）午後6時30分
場所：天理市立福住公民館 大会議室

次 第

1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 議 事
 - (1) 具体事業の進捗状況等
 - ①旧福住幼稚園利活用事業 事業者提案／質疑応答
 - ②空き家利活用推進事業（お試し居住モデル体験事業）
 - ③酒米作づけ推進事業
 - ④高原地区街づくり基本構想（素案）の策定
 - (2) その他
 - ①「やまと」活動報告
 - ②池田・菅野委員への評価制度授与式報告
 4. 次回の日程
 5. 閉 会
-

【添付資料】

- P1 高原地区街づくり協議会委員名簿
- P2 高原地区活性化プロジェクト一覧
- P3 旧福住幼稚園利活用事業 プロポーザル審査結果
- P4 旧福住幼稚園利活用事業 スケジュール
- P5 お試し居住モデル推進事業（若手職員の地域体験）
高原地区街づくり協議会基本構想（素案）

【参考資料】

- ・テレワークセンター設置事業 [天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）抜粋]
- ・[特定非営利活動法人 誠優会] 幼稚園利活用事業プロポーザル提案書
- ・[特定非営利活動法人 誠優会] ぽかぽか工房地域交流イベントチラシ
- ・【やまと】活動報告資料
- ・福住校区に関する新聞／フェイスブック／雑誌「Discover Japan」掲載記事
- ・天理大学生行政施策貢献制度掲載記事

事業予定一覧(案)

プロジェクト・事業項目	第5回会議から現在までの概況・整理	第6回会議を含めた今後の展開・計画(案)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1.空き家利活用推進事業 (お試し居住モデル体験事業)	○7月8日、「もよの家」にて天理大学生人間学部1年生・体育学部3年生の合計11名が通学合宿を実施。 ○7月25日、職員3名が体験。 →空き家候補地の発掘:長滝町2軒、福住町1軒。	○もよの家を活用したお試し居住ツアーの実施と、高原地区の生活スタイルを発信するライフスタイルブックの作成、空き家をリストアップした移住バンクの作成などを行う。	●————→				
2.民泊モデル体験事業	○長滝町1軒で意向あり。所有者と協議するも85歳高齢者であり、ご親族の意見により断念。 ○見ず知らずの家族を泊めるには抵抗あり。	○夫婦や子どもの友人・知人を対象とした受け入れ支援、対象者の範囲拡大検討。	●————→	(知人・子ども友人を対象)		(知人・子ども友人以外を対象)	●————→
3.産品づくり推進事業	○産品づくりを促進されるようなアイデアを企画されている方がおられる。	○人的・資金・情報発信などによる支援を行いたい。	●————→	(開発支援・販売支援)	————→		
4.酒米作付けプロジェクト	○9月7日朝日新聞にて紹介記事あり。⇒配布資料あり	○試験的栽培の結果を踏まえた対策を検討。	(試験的实施)	(本格実施)			
5.旧福住幼稚園利活用事業	○利活用事業の最優提案者として誠優会に決定	○審査結果と今後のスケジュールは会議資料を参照。 ○11月7・8日にぽかぽか工房イベントを開催	(事業者決定)			(利活用開始)	————→
6.山田公民館利活用事業	○岡田委員提案「小学生ひとり寝キャンプ」は実施できず。	○「小学生ひとり寝キャンプ」の28年度実施に向けた内容検討を行う。 ○その他木造校舎を活かした活用策を検討する。	(企画立案)	(実施)			————→
7.農業法人誘致事業	○自然豊かな環境と豊富な農地の存在によって、民間主導による教育型農園の設置などの提案を受けている。→需要のある地域であることが見込まれる。	○意向のある企業と所有者とのマッチングの機会を図る。	(調査)			(誘致活動)	————→
8.「やまと」事業・取組	○7月4日ホテル観察会、8月21・23日幼稚園カフェを開催され、校区内外での子育て世代・こどもらの交流が芽生える。	○10月31日「蒔の駅」イベントを開催される。	●————→				————→
9.長滝町「長滝復興プロジェクト」	○着実な整備を重ねていただいている。	○地形を活かした憩いのスポットとなり来訪者の増加が見込まれる。	(調査)	●————→			————→
10.福住活性化プロジェクト協議会 「ミニ道の駅(産品直売所)構想	○野菜に限らず、木の枝など里山ならではのモノを提供する機会を創出したい。	○天理駅前、柳本、櫟本でもマルシェを開催。高原地区での開催をできないか。他地域とは異なる高原の特色を出した展開が見込まれる。	(調査)	●————→		(誘致活動)	————→

旧福住幼稚園利活用事業

[旧福住幼稚園施設等利活用事業 プロポーザル審査 結果]

1. 最優秀提案者

○2者の応募の中から、ヒアリング審査を経て、「特定非営利活動法人 誠優会」が最優秀提案者に選定。

2. 審査委員会の概要

(1)スケジュール

- ①7月 7日(火):公示
- ②8月 7日(金):提案書×切 2者から提案書の提出、
- ③8月11日(火):提案者が3者以下であったため、一次審査は行わず、2者が二次審査へ進む。
- ④8月14日(金):二次審査 ヒアリング審査にて最優秀提案者を決定

(2)2次審査 1位獲得者数及び評定点

	1位通過者	1 業務実績 実施体制	2 提案内容	3 プレゼンテーション	合計点
配点		630	2170	700	3500
特定非営利活動法人 誠優会	7名	456	1742	564	2762
B者	0名	510	1458	480	2448

(4)審査委員 7名

副市長 藤井純一、市長公室長 山中由一、まち・ひと・しごと創生本部顧問 高津融男
高原地区街づくり協議会委員(中谷博委員、市本貴志委員、木村勇委員、小野原勇委員)

旧福住幼稚園利活用事業 スケジュール(案) 概要

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

協議会
10/16

●10/4
区長会説明

トイレ等の基礎的改修
【設計業務】
～11月中旬

協議会
12月～1月

●12月初旬
(予定)区長会説明

テレワーク
設置準備
1月～2月

トイレ等の基礎的改修
【工事】
1月～3月

幼稚園施設用途変更手続

協議会
3月～4月

●4月初旬
(予定)区長会説明

お試し居住モデル体験（若手職員の地域体験）

1. 体験期間：7月25日(土)夕方～26日(日)早朝
2. 参加者：3名（ほか顔出し者4名）

【意見】

<30代前半・男性（朝和小学校区出身・市内在住）>

○何よりも涼しさに驚いた。当日・天理市の最高気温は32度であったが、夕方から夜にかけての涼しさに驚いた。夜はむしろ肌寒さを感じた。

○福住へ訪れることは初めてであったが、実際に来訪し、体験することで地域の良さに気付く。

○早朝は、小鳥のさえずりが目覚まし時計の代わりとなった。

○空気が澄んでいるため、夜空の星がはっきりと見えるうえに天空との距離が間近に感じる。

<20代後半・男性（大阪出身・大和高田市在住）>

○本当の田舎を知らないで育った。

○これまでマンション住まいしか経験がなく、「縁側に座る」という行為自体あまり経験はなかった。縁側に座り、じっくりと緑色に染まる景色を楽しめた。

○就寝時は、雑音がなく静寂さが強調されるために、虫の羽音が聞こえる。

○まるで、旅行に来たような感覚に至った。



天理市
高原地区まちづくり基本構想
(素案) Vol.1

平成27年10月16日

天理市

基本構想策定の背景

高原地区は、市の東部山間部に位置し、海拔400メートルから500メートルの高原地帯である。その歴史は古く、縄文時代にはすでに人の営みがあったことが出土の土器(上入田遺跡・鈴原遺跡)によって証明される。

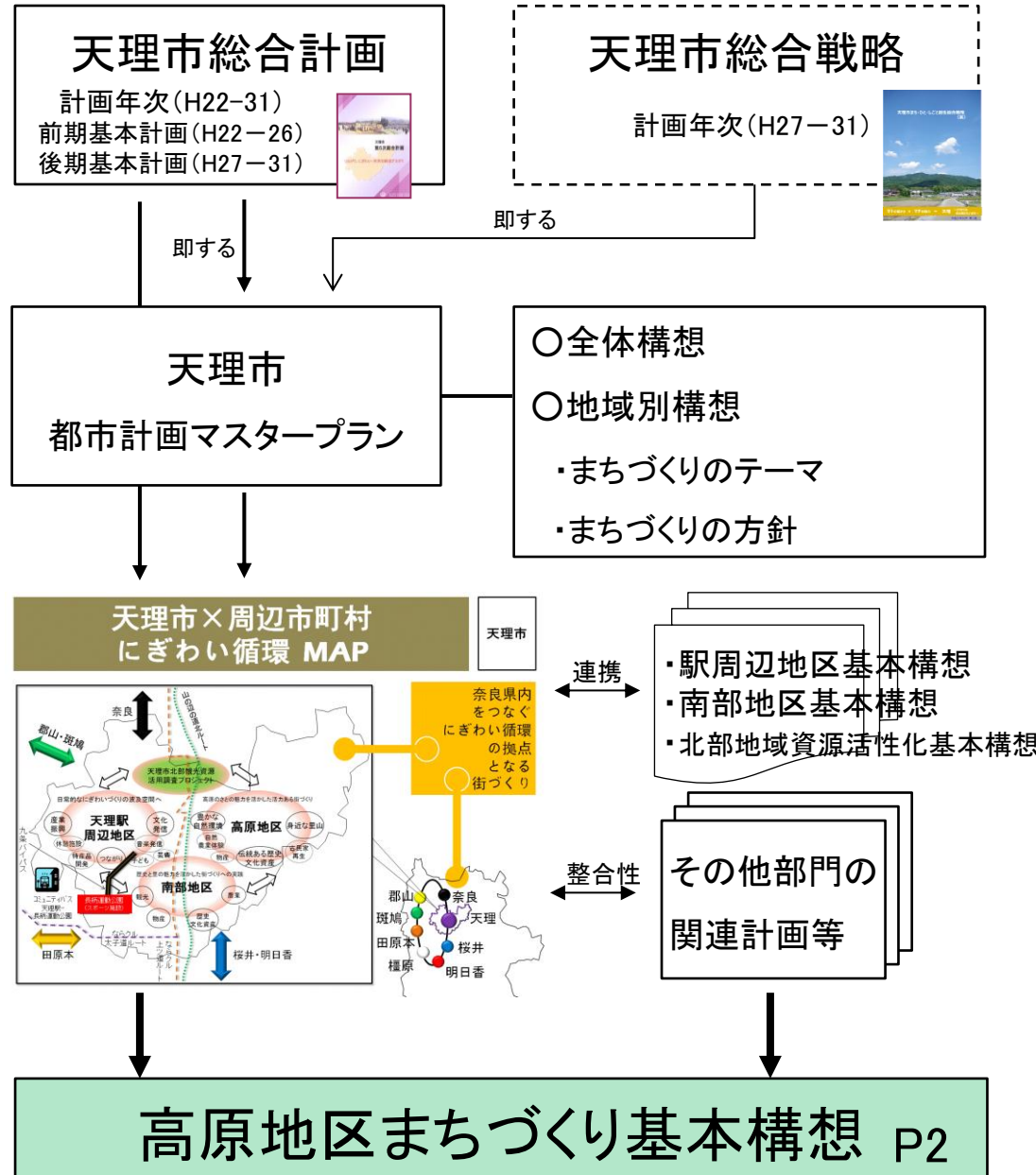
中世には興福寺の傘下に福住氏・山田氏が興り、他の大和武士同様に群雄割拠の時代にあった。その中で、福住氏は筒井氏との強い姻戚関係にあり、大きな存在であった。

江戸時代に天下が統一されると、福住地域も幕藩体制に組み入れられ、明治になり、大字福住、山田、長滝が一つになって山辺郡福住村が設立、昭和29年天理市に合併され、福住町、山田町、長滝町となった。

26年度において、各地域の課題を解決するため、3地区を基本とする天理市まちづくり協議会を発足し、住民・地域活性化団体等とともに、裾野を広げた取組を行いながら目指す姿を共有してきた。

今般、再認識を図るため基本構想を策定する。

基本構想の位置付け



01 基本構想策定の概要

1. 基本構想策定の目的

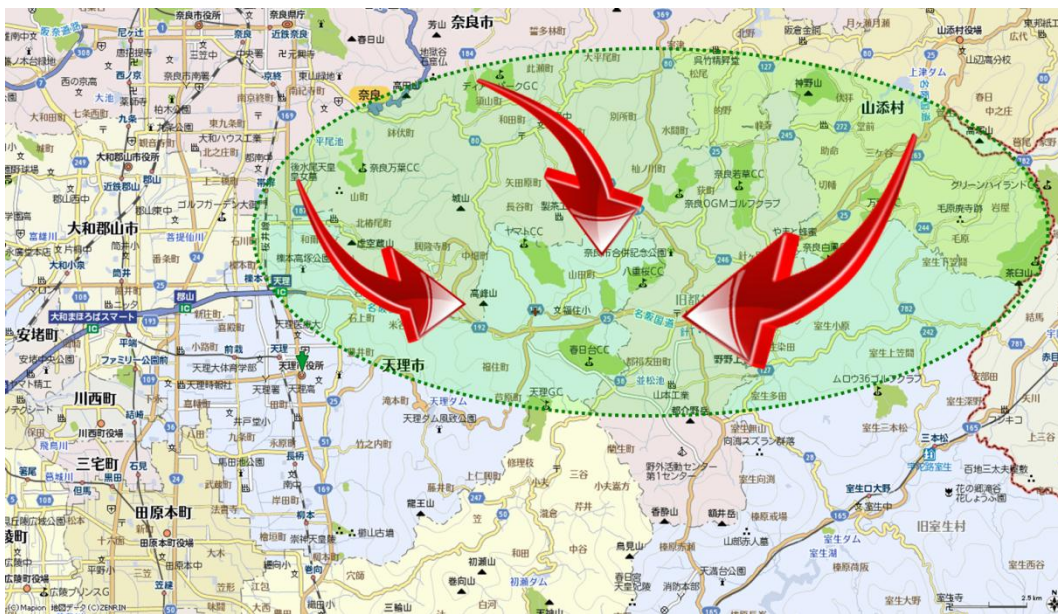
◆将来ビジョンの共有

市民・事業者・行政などが協働してまちづくりを推進するため、将来ビジョンを共有する。

◆まちづくりの実現

地区が抱える課題や長期的な展望を踏まえた総合的な計画を立て、本市の核にふさわしい“にぎわい”と“やすらぎ”を感じるまちづくりを図る。

2. 対象エリア

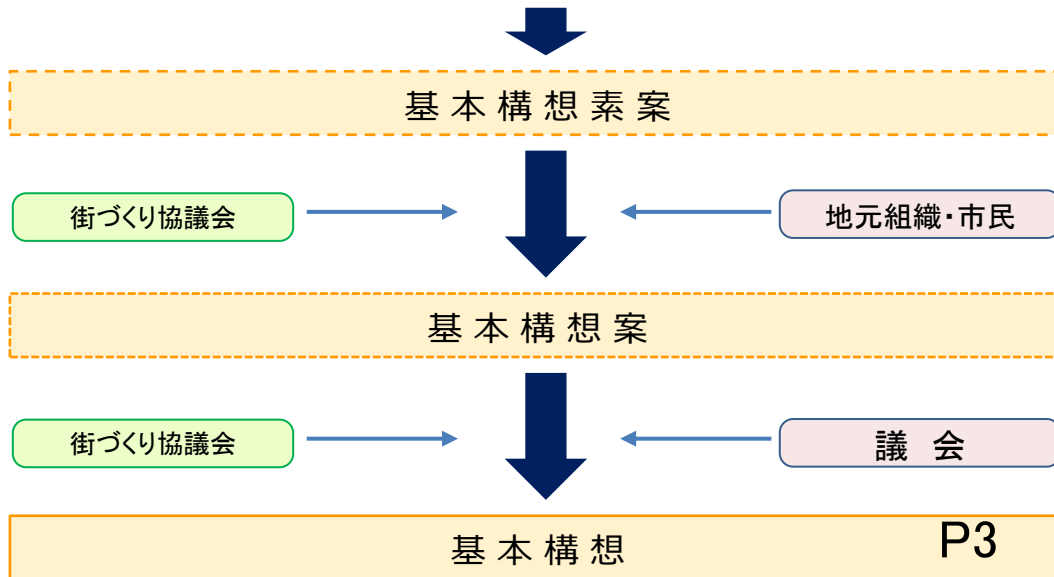
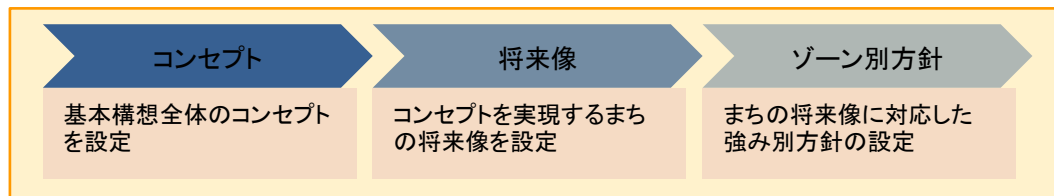
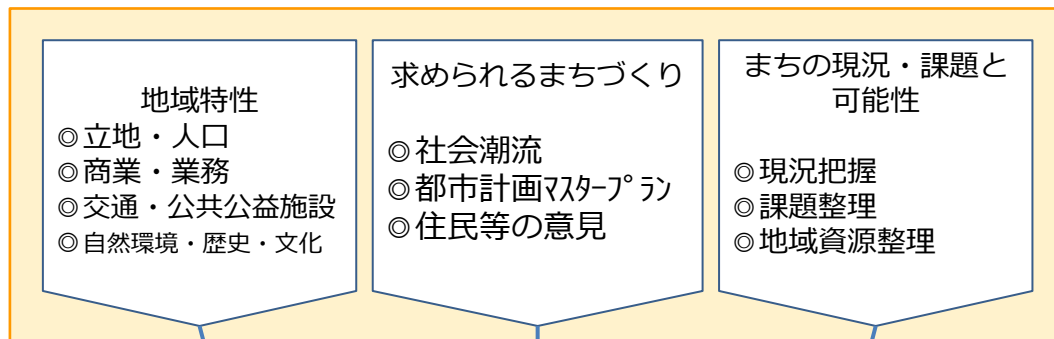


福住校区(福住町、山田町、長滝町)を基本エリアとし、隣接する菅原・仁興、奈良市(都祁・田原地区)・山添村の大和高原地域、桜井市・笠地域などとも広域的連携をすすめる。

3. 策定までの流れ

視点

里山の魅力を活かした新たなライフスタイルを提案する。



02 地域特性と求められるまちづくり

1. 地域特性

◎立地・人口

- ・市の東部山間地域(標高450~500m)に位置し、東側は奈良市(旧都祁村)、南側は桜井市などに隣接する。
- ・広域的な交通アクセルを利用して大阪都市圏から約1時間の通行圏域にある。

高原地区の位置

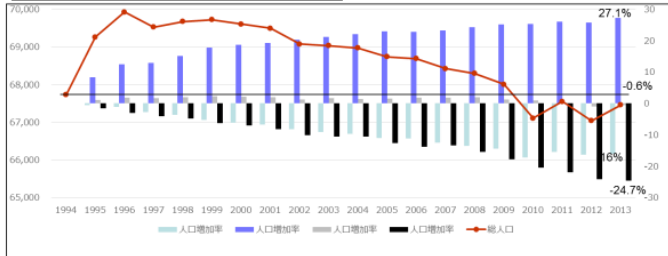


高原地区周辺の地形

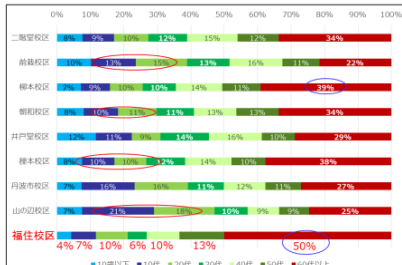


- ・福住校区人口は平成25年で1,480人であり、減少傾向にある。
- ・世帯数は平成25年で586世帯であり、増加している。
- ・世帯人員は著しく減少しており、地域における主な家族構成に変化が起きているとも考えられる。
- ・人口の年齢構成では、高齢化率は平成26年で40%であり、4中学校区中で最も高齢化が進んだ地域となっている。同時に、20歳未満の人口は校区全体の11%であり、4中学校区の中で最も少なくなっている。

4校区別人口増加率(1994年=0%)と総人数の推移



校区別年代別人口



※参考 4校区別人口

© 2015 IBM Corporation

◎児童数

- ・小学校・中学校とも児童数は年々減少しており、少人数教育、地域の魅力・特色を活かした小・中学校の取り組みを見出す必要がある。

児童数推移	H17	H22	H27
福住小学校	73名	65名	42名
福住中学校	46名	34名	23名

◎商業・業務

- ・豊かな森林環境を利用した、ゴルフ場などのレクリエーション施設が設置されている。
- ・大型商業施設は存在せず、日用品購入は市街地にある大型スーパーや宅配システムを利用している。
- ・事業者は、大規模なプラスチック製造工場や運輸倉庫業を中心に、個人事業者となる木材加工場・工房が存在する。



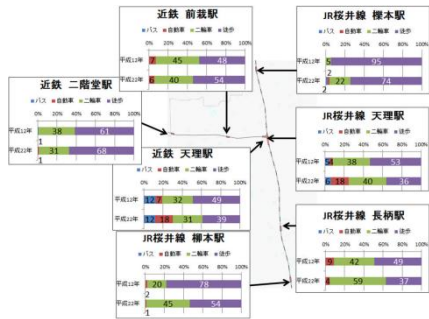
02 地域特性と求められるまちづくり

1. 地域特性

◎交通・公共公益施設

- ・公共鉄道はなく、バスは2路線(奈良交通・天理都祁線A・B)で運営されているものの、1日の運行本数は少ない。デマンドタクシー「ぎんなん」号が1日5便の運行体制を敷いている。
- ・東西を名阪国道が貫いており、奈良・大阪圏及び三重県への交通アクセスは優れている。

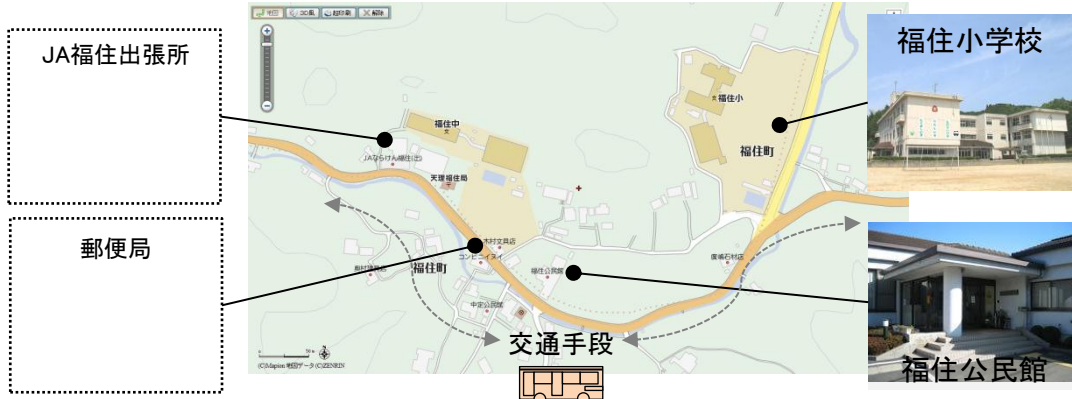
天理市鉄道・バス系統図



高原地区の交通網「ぎんなん号」



- ・小学校・中学校の教育施設や、社会教育施設である公民館、農協、郵便局などが集約したコンパクトシティに相当する拠点整備地域があるものの、各集落と結ぶ交通手段が課題となる。



◎自然環境・歴史・文化

- ・豊かな自然環境である。
- ・氷の神様を祀る氷室神社や、氷を自然貯蓄した天然貯蔵庫「氷室(ひむろ)跡」が20数基残存する。

まちづくりマップ



氷まつり



復元氷室



山田公民館



木造建築

氷室神社



2. 求められるまちづくり

◆まちづくりの方向性

- ・山林や農地を活かした地域振興、産業立地による地域の活性化、及び生活環境の維持・充実を図る。
- ・豊かな自然環境と地域振興・活性化の共生を図った、継続的に自律性の高いまちづくりを求める。

◆まちづくりの方針

- ・豊かな自然環境と交通利便性を活かして活力を創出するまちづくり
- ・広域交通の利便性を高める安全で便利なまちづくり【都市施設】
- ・山並みと田園・集落の景観を守るまちづくり●高齢者が安全で便利に移動できるまちづくり【その他】

◇住民等の意見

- 市民アンケート等より抜粋
- ・子どもと遊ぶところがない。
- ・地域でまかなえるものは地域で補いたい。
- ・高齢化が進み荒地が増える。
- ・買い物不便である。
- ・氷室など地域特有の資産があるため、PRしていきたい

3 まちの現状・課題と可能性

【 共 通 課 題 】

【人材・組織】

○人口減少(リーダーとなる人材の減少と不安増加)

【生活利便性】

○自家用車以外の日常的交通手段
○通院手段、買い物手段の確保

【生業】

○農業後継者の確保 ○雇用場所の減少(高齢者、女性の活動が広がらない)

【住まい】

○市街化調整区域での住宅建築の規制

【環境】

○有害鳥獣の被害防止 ○耕作放棄地の拡大防止
○空き家、廃校施設の有効利用 ○道路除雪の維持
○観光拠点の点在化 ○不法投棄・産業廃棄物投棄の可能性

【つながり】

○地域住民が集う機会の確保 ○青年団・婦人会等の中間組織の衰退
○祭事や行事などの共同活動の維持 ○他地域や関係団体等との連携の維持・管理 ○移住者を受け入れる環境づくり

etc...

【 可 能 性 】

田舎暮らしを志向するリタイヤ世代や新規就農を目指すUJIターン者(都市間還流者)が存在

有形・無形文化財や地域固有の食文化など多彩で個性豊かな文化資源が豊富に存在

地域の特色を活かした学習環境の充実

利活用が期待される交流施設や遊休施設(遊休農地)が存在

集落活性化や交流推進、生活支援など実績のある様々な団体が存在

町単位では地域の絆や連帯意識、活動等が存在

etc...

対策例

1

新たな活動の担い手

地域から都市部に他出している人材や外部専門家等の参画を図ることが必要かつ有効

2

活動体制

既存の活動グループや組織等を基盤としつつも、広域的な体制の構築を図ることが必要

3

場の提供

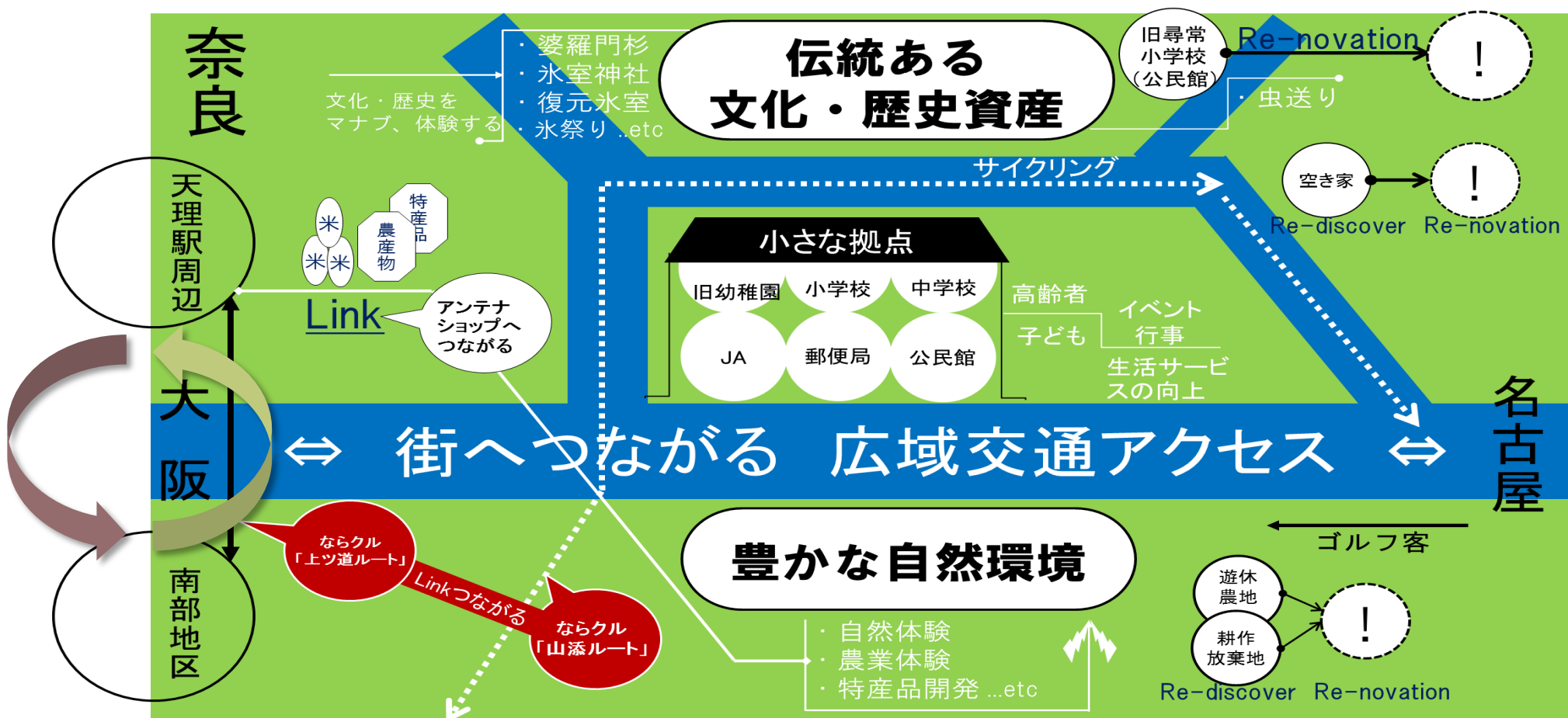
従来の集会とは異なる地域共通課題の解決に向けた話し合いの場・機会の創出が必要

04 コンセプトと将来像

1. 基本構想コンセプト

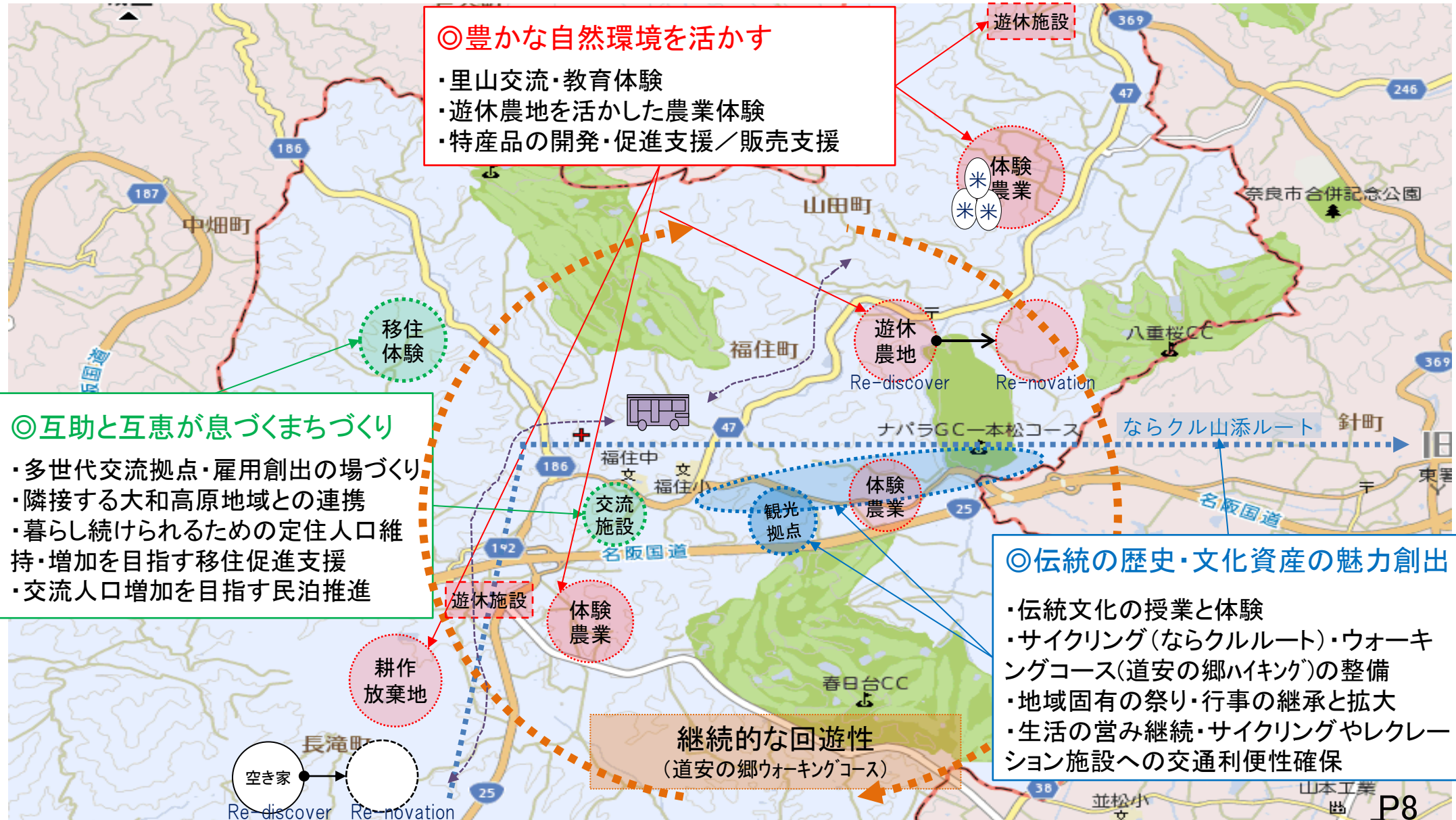
「住んでよし！訪れてよし！」を体現する高原のさと

2. まちの将来像(コンセプトの視覚化)



04 コンセプトと将来像

3. まちの将来像(展開地域の視覚化)



05 強み別方針

1. 強み別区分の考え方

「まちの将来像」を実現するために、特性や目指す将来像などを基準に強みを3つに区分した。

◎豊かな自然環境を活かす

I

◆取組の方向性: 環境と調和する圏域づくり

特 性: 美しい里山と風光明媚な景観

将 来 像: 原風景となる景観維持と里山資源を活かしたまちづくり

◎伝統の歴史・文化資産の魅力創出

II

◆取組の方向性: 地域特有の気候特性を活かした観光まちづくり

特 性: 日本書紀に記述される「氷」にまつわる神社・氷室跡の存在

将 来 像: 氷を押し出した「氷室」を冠した地名ブランド化

◎まちへつながる高原のさとをPR

III

◆取組の方向性: 互助と互恵が息づくまちづくり

特 性: ぬくもりが息づき、絆でつながるひとづくり

将 来 像: 生活の営みを起点とした質の向上と定住促進地域

05 強み別方針

1. 豊かな自然環境を活かす

取組の方向性

環境と調和する圏域づくり

●里山交流・教育体験

・遊休農地や豊かな・四季を感じる自然環境を活用し、市街地と高原地域のこどもらによる里山交流・教育体験を創出する。

●遊休農地を活かした農業体験

・農業後継者不足による増加傾向を見越し、遊休農地を活かした農業体験を付与する(市民農園・教育型農園等の設置)。

●特産品の開発・促進支援／販売支援

・道安ホオズキなどの地域作物の生産・加工・販売をはじめ、新たな収益作物(酒米など)の栽培を促進支援、販売の機会を創出する。

●調和した観光誘導サイン・案内板の整備

・豊かな自然景観と調和した色彩や形態を有する誘導サイン等の整備を図り、点在する観光拠点への誘導を図る。

参考イメージ



05 強み別方針

2. 伝統の歴史・文化資産の魅力創出

取組の方向性

地域特有の気候特性を活かした観光まちづくり

● 伝統文化の授業と体験

・氷の神様を祀る氷室神社や天然の貯蔵庫「氷室」跡など、奈良時代・日本書紀に記された時代を後世に継承する。

● 地域固有の祭り・行事の継承と拡大

・時代の進行とともに廃れゆく可能性のある伝統行事を、着実に後世に継承する。

・特有の資源を見出した住民創案の「氷祭り」を、氷室のまちをPRする既存の観光イベントと融合させる。

● サイクリング・ウォーキング大会のコース招致

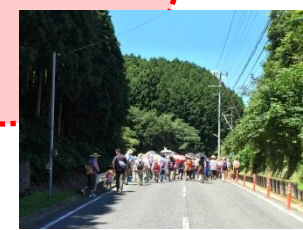
・風光明媚な景観を活かしたサイクリング大会コースの招致

● 生活の営みを継続しつつ、サイクリングやレクレーション施設への交通利便性確保・観光の回遊性を創出するため、国道25号線を整備する。

参考イメージ



国道25号線にぎわい(イベント時)



05 強み別方針

3. まちへつながる高原のさとをPR

取組の方向性

互助と互恵が息づくまちづくり

- 多世代交流拠点・雇用創出の場づくり(施設リノベーション)
 - ・役割を終えた幼稚園を地域の活性化や雇用の創出、福祉の向上に寄与する民間事業者を誘致し、新たな地域再生を始動。
- 隣接する大和高原地域との連携
 - ・隣接する奈良市(都祁・田原付近)、近接する山添村などの広域的な大和高原エリアと連携
- 暮らし続けられるための定住人口維持、増加を目指す移住促進支援
 - ・地域で育つ子どもらの通学支援、買い物支援対策
 - ・標高500mに位置し、涼夏を味わう避暑地としての移住・二地域居住の促進するとともに、お試し居住モデルの実施による体験居住の機会を付与する。
- 交流人口増加を目指す民泊推進
 - ・高原地区の魅力を知り・発信するための機会を創出する。

参考イメージ

